THE ILC GAZETTE

横浜隼人高等学校 国際語科通信

Vol.２５
2018･2･15

日本文化を学ぶ会（百人一首大会　２月１日）１７回目となる伝統の（？）催しが今年も開かれました。昨年から競技かるた同好会の生徒が運営を手伝ってくれていることもあり、より本格的な百人一首大会になっています。「皆さん、かるた取り、楽しめましたか？　かるた同好会、小田垣先生の詠みもさすがでしたね。来年も今年以上の盛り上がりを期待しています（担当　一木先生）」

熱戦！そして時々爆笑（？）ＩＬＣ１、２年生が入り乱れての会場は大盛り上がり！

大会恒例！　ネイティブによる英語百人一首の詠み！　先生方はみんな詠みが上手でした！

クラス選りすぐりの生徒が登場しての「名人戦」！

グループ戦の優勝チーム！　おめでとう！

冬休みに詠んだ「隼人百人一首」の表彰も

２月で退職されるタイラー先生のお話

これも恒例！一本締めで終了！

ＪＩＣＡ横浜のロビーには展示スペースも。せっかく来たのだから、好奇心全開にして！

よこはま国際フォーラム（２月４日　ＪＩＣＡ横浜）国際語科の生徒が今までのべ１５０人ほど参加している釜石支援の「瀬谷ボランティアバス」での発表をメインに「震災以降の人との繋がり」についてセミナーを開いて参加者と意見交換をしました。その他にも７０人ものＩＬＣの生徒が国際協力ＮＧＯのセミナーに参加して大いに学習しました。

ＪＩＣＡ横浜のロビーでセミナーの最終打ち合わせ

瀬谷区社会福祉協議会の水越美恵さん

いわき市東京事務所の稲田千尋さん

「瀬谷ボランティアバス」によって、ＩＬＣはいろいろな方と繋がりを持つことができました。釜石市だけでなく、昨年はいわき市の方々とも！

大船渡東高校の高橋未宇さんから震災以降の当地の報告

東日本国際大学附属昌平高校のみなさんからの復興報告

後半は、グループディスカッション。「震災以降、どのような人との繋がりが大切なのだろう」ＩＬＣ生徒が大人、他校の高校生と活発な議論と交流を行いました。

ＩＬＣのセミナーに参加した生徒の感想

●東北の高校生の話を生で聞けたり、最後の自分が初めて会う人と意見を交換してみて、年齢も性別もちがうけれど似ているところや自分では気がつかなかったことを聞けて普通に話を聞く気じゃなかったのでさらに自分のためになって自分でも伝えていかなければいけないことがあるのかと考えさせられました●いつ起こるかわからない地震はとても怖いことだけれどきっと前もって考えていたら、役に立つことはあると思います。人と人との繋がりを大切にしていくことが大切なことだと思いました●私が 11 月に被災地である釜石や陸前高田を訪れた時、まだなにもないところが多く驚きました。こうして、人から人へと情報を伝達して行く、被災地の方から国際フォーラムに参加した方へと被災地の状態が伝わる、横浜隼人の生徒がそのようなことの架け橋となっていることにとてもいいなと思いました。